

研究機関：広島大学

<p>発現に関する検討</p>	
研究責任者名	広島大学病院 腎臓内科 教授 正木 崇生
研究期間	令和元年8月21日(倫理委員会承認後)～令和8年3月31日
対象者	平成25年4月1日から平成28年12月31日の間に、広島大学病院腎臓内科に入院し、腎生検にてIgA腎症と診断された患者。
意義・目的	腎疾患の進展に虚血で惹起される炎症が重要な役割を果たすことが知られていますが、その機序についてはまだ解明されていません。近年、Rig-I というタンパク質が炎症を引き起こすことが報告されています。今回、IgA腎症と診断されたヒト腎生検組織を用いて、Rig-I・低酸素/炎症マーカー・腎保護作用のあるKlothoとの関連性について調べます。低酸素によってRig-I発現が亢進し、炎症を引き起こし、腎疾患の進展に関与することを検討するため、この研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。カルテから使用する内容は年齢、身長、性別、血清検査(血糖、脂質、尿酸、腎臓機能)、尿検査(尿蛋白、尿糖、尿潜血)、尿生化学検査(尿蛋白、尿糖、尿潜血)などです。